

大山祇神社



大山祇神社灯籠

大山祇神社は園部町大河内にあります。祭神はすさのおのみこと、いざなぎのみこと、いざなみのみことの三神です。天暦3年(949)に藤原純友の弟純策が紀州熊野権現を祀ったといひます。また、文中3年(1374)に楠木正季が祀ったという伝えもあります。なお、大河内という地名の起こりは南北朝のころ、当地に楠木正季が落ち延びて出身地の河内国から大河内となったといひ言い伝えもあります。

本殿は応永26年(1419)の建立とされ、楠木氏の子孫であるという下村、田井氏の寄進といひう。



大山祇神社鳥居



大山祇神社本殿

普濟寺と足利尊氏



普濟寺山門

普濟寺は園部町若森にあり、建武3年(1336)1月、足利尊氏は北畠顕家・新田義貞らに破れ、九州へ敗走の途中、妹千種姫を若森の地に残し、多紀郡普地村の内藤道勝季定を頼りました。若森に残された千種姫は地蔵堂を建て、護持仏の延命地蔵菩薩(弘法大師作と伝えられている)を祀り、尊氏の無事京都帰還を祈ったといひます。

天下掌握を果たした尊氏は貞和2年(1346)天下太平・万民救済の為、天竜寺開祖夢想国師を開山とし、妹千種姫を国司の弟子として太平山普濟寺を建立したといひます。

そして、貞和3年(1347)観音堂が建立されたといひます。普濟寺境内の五輪塔は千種姫古墳という円墳の頂上にあります。なお、普濟寺付近には径10~15mの小型円墳が存在します。普濟寺は元々臨済宗でしたが、寛永11年龜山

藩主菅沼定芳によって曹洞宗に改められました。



普濟寺五輪塔



普濟寺観音堂
重要文化財

藪田神社



藪田神社鳥居

藪田神社は園部町南大谷にあり、延喜式神名帳に載る「志多非神社」に比定される。ここ鎮座地を「志多樋」といい、かつては志多樋神社と称していたとされる。志多樋（非）神社の祭神は猿田彦命で南桑田郡（亀岡市）、船井郡、北桑田郡の3郡にまたがり39ヶ村の総氏神であったという。藪田神社は月読命を祀る。

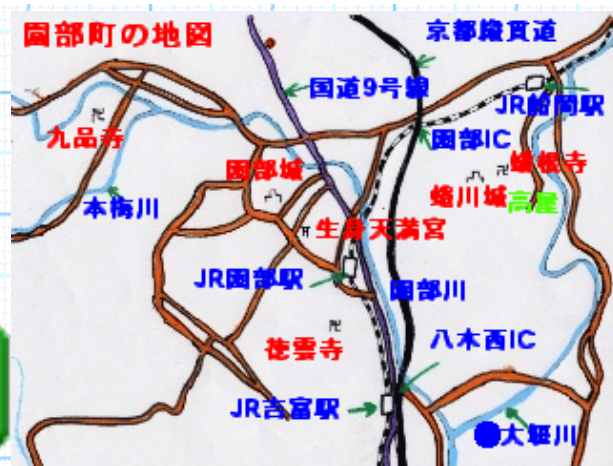


藪田神社本殿



志多非神社本殿

蟠根寺と蜷山城



蜷川城は応安2年(1369)蜷川親朝によって、下河内村(今の高屋)に築かれたもので、親朝の長男親俊が京都臨濟宗東福寺の曇翁を開山として創立したのが蟠根寺で、この寺には親朝の「竜安院蟠根寺殿祖栄活妙大居士」という位牌が安置されているという。また、寺の蘭塔場には蓮花台座つきの基壇の上に宝篋印塔がある。南北朝から室町時代初期のもので蜷川親朝のものとされている。

蜷川氏は元は宮道氏と名乗り、初代宮道親直は源頼朝に仕え、伊豆の拳兵で軍功をあげていた。後に越中新川荘の地頭に補任され、新川郡太田荘新川邑に住居を構えていた。5代目の親心の代で室町幕府政所執事伊勢貞継の執り成しで政所代を勤めるようになった。6代目親行、弟親朝は伊勢貞継との縁で足利尊氏に仕えるようになり、親朝が丹波国下河内村に城を構えて、丹波蜷川氏の初代となった。以後、二代親俊、親俊の長男親告は越中蜷川氏を継ぎ、親俊の次男貞範が三代を、四代目は親孝、五代貞相、六代貞顕と続き、

室町時代末期には園部城を取り囲む多くの山城で激烈な攻防戦が展開され、次々と開城される城が多かったにもかかわらず、蜷川城は安泰を保っていました。蜷川氏が室町幕府の目付役として丹波一円に睨みを利かせていました。明智光秀の丹波攻めの際は光秀に従い、本能寺の変後、山崎の合戦にも従う羽目となりました。城そのものは江戸時代初期までは存在していました。

小出吉親が元和5年園部城を築くにあたり、背後に蜷川城があるのは好ましくないということや元和の一国一城令に反するということから寛永13年取り壊され、廃城となりました。

